

第 3 回町田市長期計画審議会議事概要

1 **開催日時** 令和元年12月16日（月） 午後 5 時00分～午後 7 時10分

2 **開催場所** 町田市庁舎 2 階 会議室 2 - 1

3 **出席者**

<委員>

（学識）大久保英敏会長、三輪律江職務代理、芳賀博委員、小林保子委員

（市民団体）深澤勝委員、安達廣美委員、小野敏明委員、上坂孝博委員、大野太郎委員、
清原理委員、清原理委員、野澤哲也委員

欠席：（市民団体）櫻本千恵子委員

<事務局>

小池政策経営部長、浦田企画政策課長、樋口企画政策課未来づくり担当課長、
本郷企画政策課担当課長、水越経営改革室長、押切経営改革室課長、
堀場財務部長、高田財政課長、田中財政課担当課長

（企画政策課）山田、山岸、新井、（経営改革室）近藤、堀、（財政課）渋谷

4 **傍聴者**

2 名

5 **次第**

- (1) 開会
- (2) 報告事項
- (3) 第 2 回審議会の振り返り
- (4) 課題抽出型市民意識調査結果報告
- (5) 各種ワークショップ等の取組状況報告
- (6) 財政の現状と今後の見通しについて
- (7) まちづくりの方向性
- (8) なりたいまちの姿について
- (9) 行政経営の方向性について
- (10) 行政経営のあり方について
- (11) その他

6 **議事内容**

1. **第 2 回審議会の振り返り**

（事務局より、資料 2 「第 2 回町田市長期計画審議会議事録概要」について説明）

- 委員からの意見は無し

2. 課題抽出型市民意識調査結果報告について

(事務局より、資料3「町田市市民意識調査報告書〈概要版〉」について説明)

- 委員からの意見は無し

3. 各種ワークショップ等の取組状況報告

(事務局より、資料4「各種ワークショップ等の取組状況報告」について説明)

- 委員からの意見は無し

4. 財政の現状と今後の見通しについて

(事務局より、資料5-1「財政見通しについて」、5-2「財政見通し(2022~2031年度)」について説明)

- 大久保会長

資料5-1と5-2を単純に見ると、来年度から赤字に転じるという認識で良いか。

- 事務局

計画上では、2021年度まで毎年度赤字になる。

- 大久保会長

この会議の中で歳入を増やすための取組について議論する必要はあるのか。

- 事務局

この会議において、取組に関する議論は必要ない。今回はあくまでも財政の現状をお伝えするために報告の場を設けた。

5. まちづくりの方向性

(事務局より、資料6-1「まちづくりの方向性」について説明)

- 大久保会長

ただいま説明いただいた内容は、本日確定したい事項である。文章表現等について意見をいただきたい。方向性の1について、まずは小林委員に意見を伺いたい。

- 小林委員

子どもが安心して過ごせる環境が大切になると感じている。4段落目に「子ども自身がここで育っていききたい、育ってよかったと思える～」とあるが、そこに「安心・安全」という言葉を加筆しても良いと考える。

- 大久保会長

方向性1で子どもを主役に行っていることについては問題ないか。

- 小林委員

問題ないと考える。

○ 大久保会長

ただいまのご意見で「安心・安全な環境」について触れていただいた。「環境」という言葉は定義が広く、人によって解釈が変わる。この「安心・安全な環境」には防災に関することも含まれるのか。

○ 小林委員

防災に関することも含めた広い意味の「環境」という定義で良いと考える。

○ 大久保会長

町田市は、これまで防災に力を入れてきた歴史がある。そのようなことも盛り込むと良いのではないか。

○ 小林委員

方向性1の内容が方向性2や方向性3に繋がっていくと考えている。そのような理由から、環境に関する記述があっても良いと考える。

○ 三輪委員

人にのみ焦点を当てている「みんなが成長していく」という文言に対して違和感を覚える。ハードの整備も含めてまちづくりをするという意味では、「まちが成長する」という表現の方が好ましいのではないか。

○ 大久保会長

本日、方向性に関する文言等は確定させたいと考えているが、「みんなが成長していく」という文言について、他に意見はないか。

○ 事務局

三輪委員の言う「まち」はひらがなで表記するという認識で良いか。

○ 三輪委員

その認識で問題ない。

○ 清原委員

この長期計画は町田市民に向けて作成しているという意味では、「みんなが成長していく」でも良いと考える。市民一人ひとりが、自分も含めて成長できると感じることができるのではないか。例として、「みんなが成長してく」ために、町田市がまちづくりを進めていくという落とし込み方ができる。

○ 小野委員

町田市民に向けた長期計画であることから、町田市民の誰もが成長していくことが伝わる文言が良いのではないか。

○ 大久保会長

成長していく対象を「みんな」から「町田市民」に具体化すると良いのではないかという意見をいただいた。

町田市を構成するのが市民だけなのかという議論もできる。例えば、市外の人が買い物や通学によって町田市で過ごすこともある。

○ 小林委員

みんなが幸せになることが、方向性1の最終的な目的・目標であるならば、「みんなが成長し、幸せになることができるまち」のように、さらに深掘りすることも良いと考える。

○ 清原委員

方向性3の「なんとなく家族」の定義がわからない。

○ 事務局

支え合いができるような、さりげない優しさや関わり合い方のことを意味している。家族のように親密でなくても、支え合うことができる関係をイメージしていただきたい。

○ 清原委員

それであれば、家族の定義を固定していることになる。高度成長期の標準的な家族のことをイメージしているのであれば、適切な表現ではないと考える。

○ 事務局

標準的な家族に限定はしていない。例えば、ファミリーサポートで外の人が子育てをすることもありますが、そのような関係性も家族の定義の中に含ませている。

○ 清原委員

そのようなつながりを持たない家族がいることを考えると、事務局の考えるこのフレーズは、「つながりのある家族のようにつながる」という意味になってしまう。

○ 大久保会長

家族以外に適切な文言があれば修正した方が良いのではないかというご意見であった。本日はこの方向性の文言等を確定しなければならないため、まずは方向性1から議論をしていきたい。

先ほどの意見を振り返ると、「みんな（まち）が成長していく」の後に「幸せを感じることができる」を加筆するという意見があった。「幸せを感じることができる」を加筆する点についてはよろしいか。

○ 委員からの意見は無し

○ 大久保会長

「みんなが成長していく」の「みんな」を「まち」と表記する点について、結論が出ていないので、議論を再開したい。

○ 安達委員

「子どもと共に、みんなが成長していくことができる」という文言を選んだ経緯について、事務局から教えていただきたい。

○ 事務局

そのような文言にした経緯の一つに、市民の方々から、子どもだけでなく町田市の人が幸せになるようにしたいという意見をいただいたことがある。また、これは当初からまちづくりの方向性として描いていたことや、これまで町田市が町田市の人のことを表現する際に、「みんな」という文言を使っていたことがある。

○ 安達委員

方向性2や方向性3についても同じような経緯で作成しているという認識で良いか。

○ 事務局

その認識で問題ない。方向性2と方向性3についても、市民の意見を反映させながらつくっている。

○ 深澤委員

方向性としてタイトルフレーズを記載した後に、町田市の特色等を説明することは想定しているのか。

○ 事務局

そのような想定をしている。

○ 深澤委員

それならば、今提示していただいている方向性の文言でも問題ないと思う。

○ 野澤委員

今回初めて参加した。市民に提示するのであれば、わかりやすさが大切になると考える。3つの方向性をみると、フレーズの中に主語が記載しているのは方向性1だけで、残りの2つには主語がない。この2つには「私達が」という主語が入ると考えると、「みんなが」という文言の妥当性について議論することに意味があるのか疑問に感じる。「みんな」という主語を削除する方法もあるのではないか。

○ 芳賀委員

「子どもと共に」という文言があることで、他の市民についてイメージができなくなる。方向性1の説明文には、他の年代の市民に対する記述もあることを考えると、「子どもと共に」という文言は不要ではないか。

○ 大久保委員

一度まとめると、「みんなが」という文言で良いのではないかという意見が出た。また、その「みんなが」という文言を「まちが」に替えても良いのではないかという意見も出た。さらに、「みんな」の定義には町田市民以外の人も含まれるという意見も出た。

仮に、そのように対象設定を多様な人たちにするのであれば、「一人ひとりが」という文言でも良いかと思われる。最後に、主語を無くすことについても意見をいただいた。これらの中から絞り込みたい。

○ 三輪委員

主語を「まちが」にする案については退けても良いと考える。フレーズの最後が「～ができるまち」と言い換えることができることを考えると、主語を「まちが」にしない方が良い。また、計画が町田市全体を対象としていることから、主語を「一人ひとりが」にするのもふさわしくないと考える。

○ 大久保会長

一つの考え方として、主語を省略して、この計画が町田市民への発信であることを理解してもらおうということが良いか。そうすれば、方向性1のフレーズは「子どもと共に、成長し幸せを感じることができるまち」となる。

○ 委員からの意見は無し

○ 大久保会長

方向性2について意見はあるか。

○ 芳賀委員

方向性のキャッチフレーズの下に説明文があるが、これも市民に公表されるのか。

○ 事務局

説明文も公表する。

○ 芳賀委員

この説明文の中に周辺都市について触れているが、「ちょっといい」というのは主観であるため、他都市と比較する必要はないと考える。

○ 大久保会長

周辺都市については削除するようお願いする。

○ 事務局

承知した。

○ 深澤委員

「いいことふくらむまちだ」というフレーズを日頃から謳っているため、そのような文言があっても良いと考える。市が現在行っている活動との一貫性も出てくるのではないか。

○ 大久保会長

フレーズの最後に加筆しても良いと感じる。この意見に対して、質問・意見はないか。

○ 事務局

フレーズの下に記載している説明文で、今の意見を反映させていきたい。

○ 大久保会長

フレーズに「いいことふくらむまちだ」を加筆した場合、「いい」が3回続くが、どこで削除すると良いか。他に意見が無いようであれば、現状のフレーズを用い、説明文の中で「いいことふくらむまちだ」について加筆する。

○ 事務局

一つの例ではあるが、説明文の最後に「生活拠点となるいいことふくらむまちづくりを目指します」としても良い。

○ 大久保会長

他に意見が無いため、フレーズは現在のものを用い、説明文の最後で「いいことふくらむまちだ」について加筆することとする。続いて、方向性3について検討する。委員から意見はあるか。

○ 三輪委員

一般名詞として「家族」という文言を用いた場合、先ほどの意見にあったような誤解が生まれるかもしれないが、“家族”という表記で固有名詞として用いるならば誤解は軽減されるかもしれない。その場合は、説明文の中で、家族の形態が変化しつつあることについて述べた方が良いと思われる。

また「家族のように」を「一人ひとりとつながりながら」といった表現に変える方法もあると考える。一般的に言われている「横でも縦でもない斜めの関係」といった表現も使えるかもしれない。まずは、他者とのつながりについて一般的な言葉で整理した上で、新しいつながりの形について言及した方が良いのではないか。

○ 芳賀委員

家族を持たない人もいることを考えると、「家族」という文言を不用意に用いない方が良く考える。「なんとなく」については、重要なキーワードであると感じている。この文言があることで、他者とつながることへの強制感が和らぐ。

○ 大久保会長

「家族」という文言を削除することについては、皆さんの意見としてまとまってきた。その場合、「家族」に代わる文言を検討しなければならない。人と人がなんとなくつながるといったニュアンスのフレーズにしたいと思う。

○ 安達委員

説明文の中で、人と人のつながりについて言及すれば良いと考える。また、「家族」という文言は削除した方が良く考える。

○ 大久保委員会

「人と人がなんとなくつながりながら」でも良いということか。

○ 芳賀委員

フレーズの後半部分について、「多様な地域」とあるが曖昧な表現であるため、意図が伝わらない。

○ 大野委員

このフレーズで言いたいことは、「多様な価値」のことではないか。

○ 大久保会長

その通りであると考え。方向性3の「含まれる要素」に「多様性を認め合う」とあるが、これは「多様性を尊重したまち」にすることを指している。方向性3のフレーズは、「多様性を尊重できるまち」という表現でも良いか。

○ 三輪委員

他のフレーズと表現を揃えるためにも、「多様性を尊重できる」にした方が良いのではないか。

○ 事務局

「多様な価値を認め合うことができる」という表現はどうか。

○ 大久保会長

そのようにすれば、3つのフレーズの全てを「できる」で締めくくることができる。「多様な価値を認め合うことができる」以外にも、「多様な価値を尊重し合うことができる」という表現も考えられるが、どちらが良いか。

○ 芳賀委員

どちらも良いと思うが、「尊重」の方が「認め合う」よりも評価されている実感が湧くため、よりふさわしいのではないか。

○ 野澤委員

わかりやすさを担保するという意味では、「なんとなく」という文言を用いることに違和感を覚える。これはタウンミーティングで出てきた文言なのか。市民から「なんとなく」の意図の説明を求められた際に、回答することができるのであれば良いと思う。

○ 事務局

つながることへの強制感を和らげる意図を持って、「なんとなく」という文言を用いている。

○ 三輪委員

「ゆるやかにつながる」という表現は、一般的に使われていることから良いのではないか。

○ 深澤委員

「なんとなく」や「ゆるやかに」といった文言を用いずに、「人と人がつながりながら」でも良いのではないか。それに先ほどの意見を加えて、「人と人がつながりながら、多様な価値を尊重し合うことができる」としてはどうか。

「家族」という文言を用いる場合は、強いつながりを想起するため、「なんとなく」を加えていたが、「人と人が」に変更したため、その必要はなくなったと考える。

○ 大久保会長

現在の意見をまとめると、「人と人がつながりながら、多様な価値を尊重し合うことができる」となる。

○ 大野委員

「人と人とが」の方が良いのではないか。

○ 大久保会長

この意見を加え、「人と人とがつながりながら、多様な価値を尊重し合うことができる」としても良いか。

○ 委員からの意見は無し

○ 大久保会長

フレーズの下にある説明文についても他に意見をいただきたい。

○ 委員からの意見は無し

○ 大久保会長

この議論をもとに事務局が修正したまちづくりの方向性は、次回の審議会までに各委員へ送付する。

6. なりたいまちの姿・行政経営のあり方について

(事務局より、資料7-1「2040なりたい未来となりたいまちの姿・行政経営のあり方について」について説明)

○ 大久保会長

次回の審議会では、基本構想の骨子をまとめる。そこでは、なりたいまちの姿のキャッチコピーを検討することになる。その資料7-1で用いる文言や、キャッチコピーについて、委員から意見をいただきたい。

資料7-1では、なりたいまちの姿の候補が3つ挙げられているが、最終的にこれから1つを絞りこみ、議論の中で文言等を変えていく。

○ 三輪委員

資料6-1のまちづくりの方向性となりたいまちの姿は対応しているのか。

○ 事務局

まちづくりの方向性にある通りにまちづくりを進めた際に、その先にあるゴールの姿が、なりたいまちの姿にあたる。

○ 三輪委員

資料6-1の方向性1が、資料7-1のなりたいまちの姿①にあたるということか。

○ 事務局

その通りである。

○ 深澤委員

方向性1に記載されていた高齢者等に関することが、なりたいまちの姿①に反映されていないのではないかと。また、安心・安全に関することも説明文の中に入れていただきたい。

○ 大久保会長

高齢者に関する説明は、重要であると認識している。団塊の世代に活躍していただいて、税収増につなげていく必要がある。他にあるか。

○ 小野委員

町田市传统文化に関する記述があっても良いのではないかと。そうすることで、町田市らしい計画になると考える。計画中のモノレールもその文化の一つになり得る。

○ 大久保会長

伝統文化について、十分に情報発信されていると感じている。次のステップとして、それを観光につなげることができればと考えている。そのような意味でも、伝統文化について加筆しても良いかもしれない。また、モノレールで町田市の伝統文化を発信していくこともできるかもしれない。

○ 三輪委員

「カントリーシティ」という文言が適切であるのか分からないが、「スローライフ」や「地産地消」のように、地場のもので生活を営むことで、産業の活性化にもつながると考える。そのような理由から、なりたい姿②に、「地場のものに価値を置く」といった文言があっても良いと考える。

○ 芳賀委員

なりたいまちの姿①で、対象を子どもに限定せず、「誰もが」を主語にすれば良いのではないか。例として、「子どもと一緒に誰もが笑顔になれるまち」となる。

○ 大久保会長

このなりたいまちの姿は、町田市民へ発信するものであるため、対象の幅を広げられたらと思う。

○ 芳賀委員

「カントリーシティ」について調べたところ、下北沢に同じ名前のカフェがあったため、この言葉を用いない方が良いと考える。

○ 大久保会長

私も「カントリーシティ」に代わる文言について考えているところである。

○ 安達委員

確かに子ども達を大切にしていくことも非常に重要であるが、まちの安心・安全の確保も重要なことではないか。その点について加筆した方が良いと考える。

○ 大久保会長

今のようなご意見を次回の審議会までに各委員で検討していただきたい。

また、まちのキャッチフレーズも絞り込まなければならない。町田市をネットで検索すると「商都 町田」と出てくる。商都以外に、そのようなキャッチフレーズも考えていただきたい。私は、町田市は食文化が発達しているところから、食べることを推しても良いのではないかと考えている。また、それを観光までつなげていければと考える。

今後は、事務局の方で資料7-1のキャッチコピーの候補を3つ挙げていただき、その中から決定する。各委員は何のキャッチコピーに絞り込むか考えてきていただきたい。

7. 行政経営の方向性について

(事務局より、6-2「行政経営の方向性について」について説明)

○ 三輪委員

行政経営やなりたいまちの姿のキャッチコピーは最終的に、候補から1つを選ぶのか。

○ 事務局

行政経営では、資料6-2の行政経営における重要な視点①～③をもとに、1つのキャッチコピーを作成する。

○ 三輪委員

資料7-1の行政経営のあり方に関する3つの項目は、資料6-2の行政経営における重要な視点①～③に対応しているのか。また、資料7-1の上段にあるキャッチコピーは、候補から投票によって1つに絞るのか。

○ 事務局

資料7-1の行政経営のあり方に関する3つの項目は、資料6-2の行政経営における重要な視点①～③に対応している。資料7-1のキャッチコピーについては、事務局で案を示し、委員に審議していただきたい。また、他の検討方法があれば提案していただきたい。

○ 三輪委員

これまで町田市がワークショップ等で市民の意見を取り入れていたことを踏まえると、何らかの段階でウェブ投票等を実施し、市民も絞り込みに参加した形で審議会で検討しても良いと考える。そのような方法は可能か。

○ 大久保会長

今回はキャッチコピーの案を決めるため、それまでの絞り込み方としては良いかもしれない。

○ 事務局

キャッチコピーの決め方としては、審議会の議論で決める方法もあれば、市民の意見を取り入れる方法もあると考えている。次回の審議会までに案を出すことができれば、その後ウェブ投票等も可能になる。

○ 三輪委員

行政と市民が一緒に行政経営に携わることが伝わる文章にしても良いのではないか。

○ 事務局

資料7-1の下段の説明文に「共創」という文言を用いて、市民と一緒に行政経営を進めていくことを示している。

○ 大久保会長

行政経営のあり方の説明文の中で、取り組む政策について記述されているが、審議会ではその件についても議論するのか。

○ 事務局

行政経営のあり方は、職員や役所組織としての行動指針となり、テクノロジーの発展等にも対応しながら、なりたいまちの姿の実現のために取り組んでいくことを考えている。

○ 大久保会長

これからのまちづくりは、ICTの活用によってスマート社会を実現していく必要がある。それによって、企業の人々が町田市に魅力を持つようになる。そのような抽象的な話がこの説明文の内容に当たるのか。

○ 事務局

その認識で問題ない。説明文にある「スマート化」が先ほどの話にあったようなスマート社会を指している。今後、基本計画の中で、説明文の内容についてさらに具体化を図りたい。計画策定時には、しっかりとした財政フレームを作り、実効性のある計画をつくっていききたい。

○ 大久保会長

今回は、資料7-1のキャッチコピー、なりたいまちの姿の提出案の絞り込みを行う。次回で決めることが出来ないと考えられるので、その際は回を重ねて検討していく。その後10年後の課題に関する検討が始まる。そこでは、今後10年で行っていく運営について検討していく。

資料7-5の説明は終わったのか。

○ 事務局

資料7-5は、これまで委員から議論していただいた行政経営のあり方の参考資料として配布している資料であるため、各自で確認していただければ問題ない。

8. その他

○ 事務局

次回の審議会は、2月3日（月）午後3時から午後5時まで、会議室2-1で開催する。